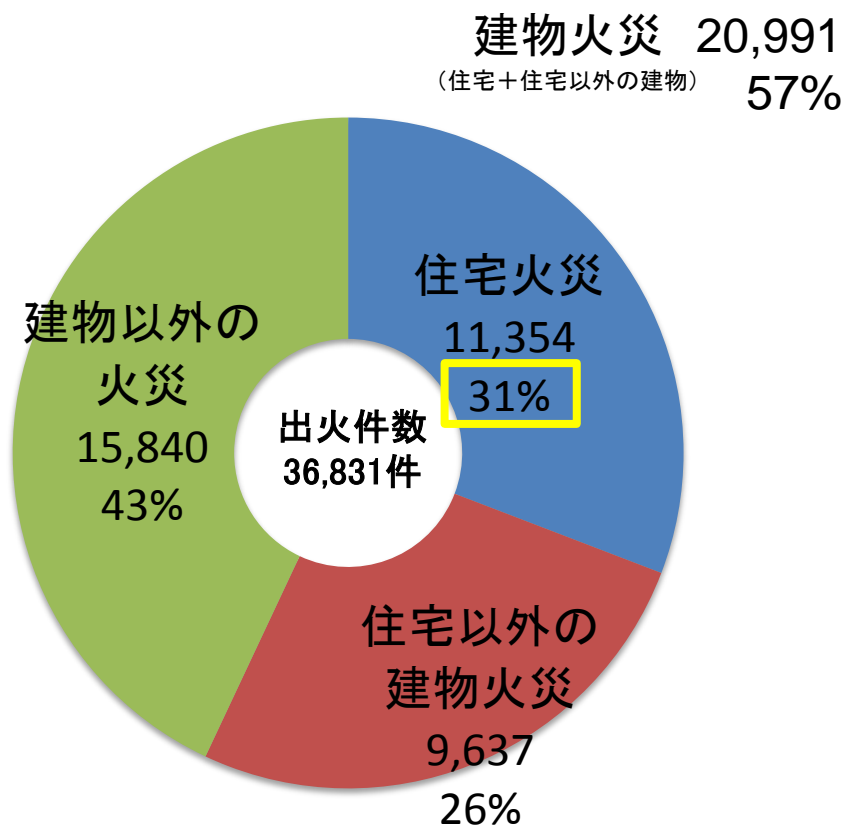


# 住宅火災による死者の発生状況（H28年）

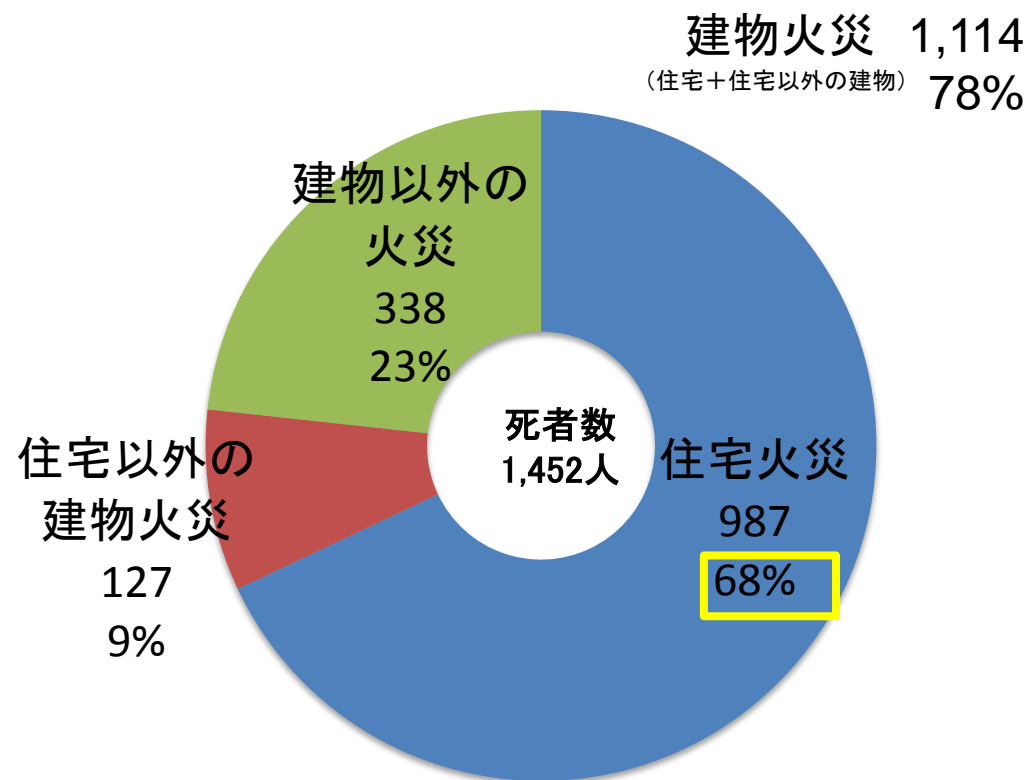
- すべての火災件数のうち、住宅火災の件数は約3割（H28:11,354件）。
- すべての火災による死者のうち、住宅火災による死者は約7割（H28:987人）。

※放火、放火自殺者等（放火自殺者、放火の卷添者及び放火の犠牲者）を含む総数

平成28年（1～12月）における火災の状況（確定値）から作成



※ 放火を含むすべての火災

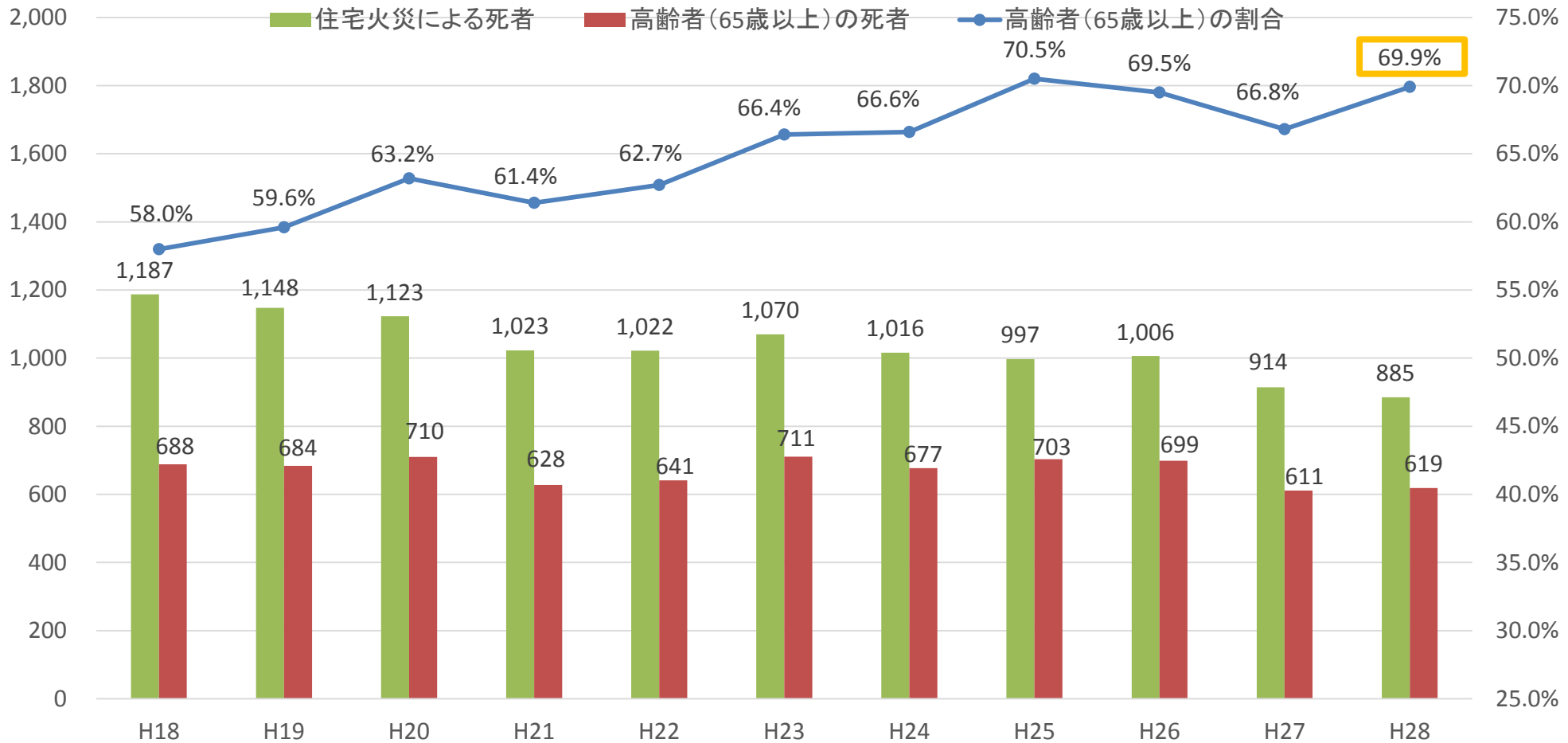


※ 放火自殺者等（放火自殺者、放火の卷添者及び放火の犠牲者）を含むすべての死者

# 住宅火災による住宅火災による死者数の推移

※ 放火自殺者等(放火自殺者、放火の巻添者及び放火の犠牲者)を除く死者

(死者数:人)



死者の約7割が65歳以上の高齢者 ⇒ 高齢化の進展を反映して増加傾向

# 住宅防火

## いのちを守る7つのポイント

### 対策4

お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



### 対策2

寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防災品を使用する。



### 対策1

逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。



### 対策3

火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。



### 習慣2

ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。



### 習慣1

寝たばこは、絶対やめる。



### 習慣3

ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。



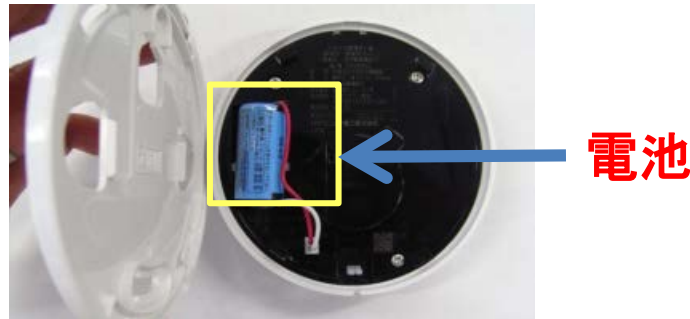
出火防止



# 住宅用火災警報器の点検・交換の必要性と促進策

- 住宅用火災警報器の**電池の寿命の目安は概ね10年**とされている。
- 新築住宅への義務化が始まった平成18年から**10年以上が経過**。
- 住宅用火災警報器の適切な設置・点検・交換の重要性や点検方法、交換方法等を住民に広く呼びかける**広報用映像**を作成し、全国の消防本部等に配布。

- 火災を感知するため24時間常に作動。
- 現在普及している機器の多くは、電池の寿命が概ね10年。



## 住宅用火災警報器の広報用映像の制作



ボタン式の点検方法

警報器の交換方法

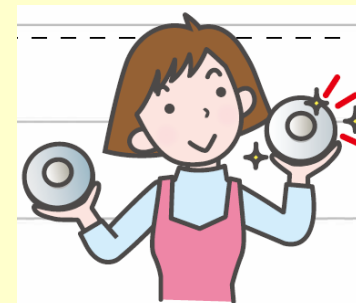


## 定期的な作動確認

### 定期的な作動確認

点検ボタンを押すか点検ひもをひっぱり、定期的（※1）に作動確認をしましょう。

作動確認をしても警報器に反応がなければ、本体の故障か電池切れです。（※2）警報器の本体又は電池を交換しましょう。



## 古くなったら交換

### 古くなったら交換

火災警報以外の警報が鳴った場合

本体の故障か電池切れです。（※2）警報器本体を交換しましょう。

- ※1 住宅用火災警報器の電池の寿命の目安は約10年とされています。警報器の作動確認は、春秋の火災予防運動の時期に行うなど、定期的に実施してください。
- ※2 故障か電池切れか分からないときは、取扱説明書を確認するか、メーカーにお問合せください。なお、電池切れと判明した警報器が設置から10年以上経過している場合は、本体内部の電子部品が劣化して火災を感知しなくなることが考えられるため、本体の交換を推奨しています。